

藤樹書院・良知館通信⑨

儒式祭典について 志村 洋

儒式祭典については、藤樹先生全集第五冊、巻之四十三の三三(一七〇頁)に、明治三十年(一八九七年)は没後二百五十年の忌辰に相当スルを以て……、京都下御霊神社社司、出雲路興通氏指導の下に文公家禮に遵拠し厳肅なる儒式の祭典を興行せり、とあるように、この藤樹先生二百五十年祭から現在の祭式が定まりました。

それ以前の儒式祭典はどのような形式であったのか。藤樹先生全集を紐解いてみたいと思います。

藤樹全集第五冊、巻之四十三の三二(一六七頁)に「没後に於ける祭祀の模様」と題した記述があり、志村竹涯翁の「書院記事」中より、藤樹先生年忌に関するものを抄録すべし、と記し。百回忌(延享四年・一七四七年)、百五十回忌(寛政九年・一七九七年)、二百回忌(弘化四年・一八四七年)の献立が載っています。百回忌では、【一】膾(似鯉・大根・金柑)、煮染(里芋・椎茸・かんぴょう)、汁(味噌・鯉・柚・蓮芋・松茸)、飯(香の物/鯛焼物・奈良漬・かけ汁)、【二】刺身(鯉細作り子付き・生姜・柚)、すまし汁(茗荷・牛蒡・山椒)、切煮(鱒蒸・葛あんかけ)【初献】大鮎あら塩焼【亜献】鴨焼鳥【終

献】鮑、吸物、松茸【後段二】鶏卵餅、砂糖あん、茶、菓子(梨子)以上。百五十回忌では、膾(鯉魚・とうの芋・青豆)御汁(鯛・大根・茗荷)、煮物(里芋、昆布、焼豆腐、ゼンマイ)、御飯平盛(鯉魚くずかけ)、向詰(鯛刺身(鯉・煎酒・生姜)御酒肴、【初献】はやすし【亜献】松茸・すり柚ひたし物【終献】

二百回忌では、膾(鯉魚・大根)汁(鯉味噌)壺(里芋・ゼンマイ・焼豆腐)平(あめの魚・松茸・青み)焼物(鯛)猪口(ひたし物)御飯(赤飯と香物)【初献】鯉魚・鮎【亜献】ウグイ白焼【終献】鯉刺身、茶、菓子、以上。式終て後、赤飯五斗、酒肴(ゑび、ひたし)。村中へは酒肴、他所参拜人に赤飯酒肴を出ス。となつています。

「鯉魚」というのは、「ピワマス」のことで、琵琶湖で獲れた物ですが、「鯛」「鮑」が献立にあります。海産物をどのようにして運んで来たのか興味があります。また、「大鮎あら塩焼」「鴨焼鳥」など旨そうな焼き物が並び、松茸の汁物とか、今では羨ましい限りです。進饌物は、その時々には献する事が出来る物が献立されたのではないかと思いますが、このようにご馳走が並んでいるのは藤樹先生への思いの深さが表れているように思われます。

近年の儒式は、明治期に定まった

祭式に抛り執行しますので、毎年同様の物を饌品しています。祭式中は助奠が目線より高く奉じるので「進饌品が見え難いのですが、式後ゆっくりご覧いただければ、儒式の愉しみも増えるかと思つています。九月二十五日は、どうぞ、儒式祭典へ。

賛助会員一覧

新規賛助会員のご紹介

○保木機料 株式会社

(高島市新旭町藁園)

○株式会社 Crow's

(千葉市川市八幡)

ご協力ありがとうございます。

○ウエストレイクホテル可以登樓

○株式会社 大山建設

○川島酒造 株式会社

○株式会社 桑原組

○有限会社 宏和商事

○税理士法人 小畑会計事務所

○有限会社 白浜荘

○社会福祉法人 新旭みのり会

○ソエダ 株式会社

○田中マネジメント事務所

○株式会社 TADコーポレーション

○鉄屋商事 株式会社

○寺子屋まなごし童心塾

○株式会社 戸井薬局

○とも栄 藤樹街道本店

○中村印刷 株式会社

○株式会社 中村測量設計

○ニッケイ工業 株式会社

○有限会社 馬場塗装

○有限会社 綿庄食品店

(五十音順)

あとがき

「教育」という仕事は…

学校では、夏休みが終わり、二学期が始まりました。子どもたちは、頑張った多くの宿題を仕上げ提出したことでしょう。自由研究、工作、絵画、作文などは、個人が選択して取り組むことが多いようです。この時期になると思い出すことがあります。

新任教頭の一年目、九月のことです。その町の教育長さんから、私を指名で電話があり、「青少年育成県民会議に提出する『作文』が、決裁で回つてきたが、学校から町教委へ出す前に、君はこれに目を通したのか？」との指摘です。「読んでおりません」と答えると、「すぐに教育長室へ来なさい」と呼ばれました。

行くと「この作文は大変よく書けている。しかし、誤字や文の繋がりの不備など、清書させるべきだ」とのこと。『この作文は学校代表、町の代表として県に行く。そのこと以上に、この子は夏休みに懸命に書き上げたもので、担任はそれに応えて丁寧に見てやるべきだ。そのように指導するのが君の仕事だろう』と。(清書して再提出、結果は県の最優秀賞に)

「真に、一人ひとりを大切に」「教育は流れ作業ではない」「中途半端ではだめ」………苦い経験です。

(H・M)